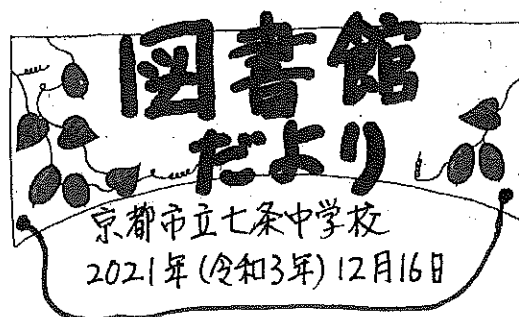




新着本です。
おすすめでーす!

来週(12月21日(火)・23日(水))
図書館開館しています!!!

ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2
(ブレイディみかこ)

(ストーリー). 13歳になった「ぼく」の日常は、今日も騒がしい。フリーランスで働くための「ビジネス」の授業。摂食障害やドラッグについて発表する国語のテスト。男性でも女性でもない「ノンバイナリー」の教員たち。自分の歌声で人種の垣根を超えた「ソウル・ワイン」。母ちゃんの国で出会った太陽みたいな笑顔。そして大好きなじいちゃんからの手紙。心を動かされる出来事を経験するたび、「ぼく」は大人への階段をひとつひとつ昇っていく。



★三浦しをん(作家)

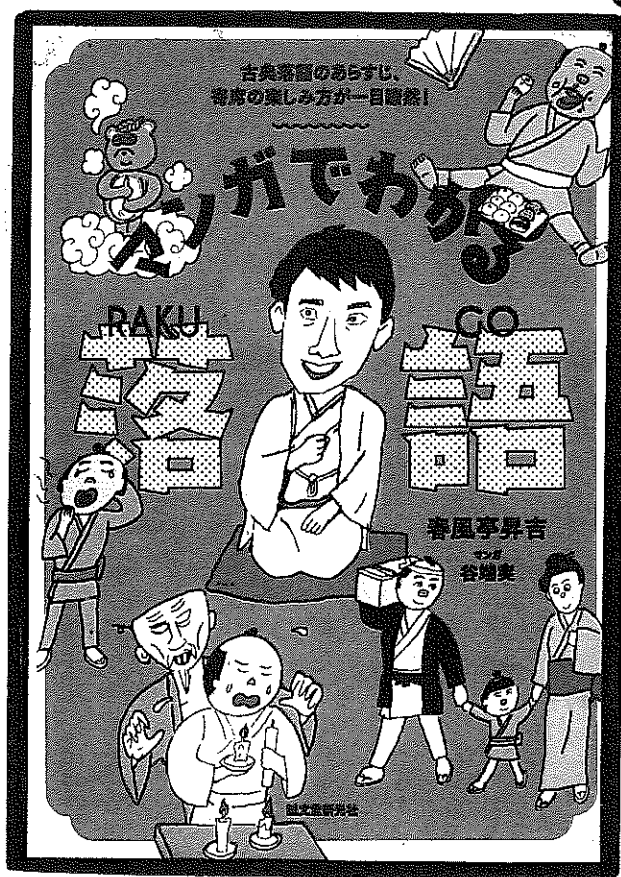
さんより、コメント

これは「異国に暮らすひとたちの話」ではなく、「私たち一人一人の話」だ。

★小川洋子(作家)

より、コメント

まさに今の状況を言い当てている。困難の中でも知恵をいばれば生きていけるのだ。



↑マンガでわかる落語 (春風亭昇吉)

いますぐ寄席に行きたくなる!
知識ゼロからの落語攻略本.

古典落語50選目
プラス
新作収録!

<内容紹介> 芝浜、目黒のさんま、明鳥...

古典落語のあらすじを、マンガでわかりやすく徹底解説した知識ゼロからの落語攻略本です。

ネタバレ注意? いえいえ、オチやあらすじを知っているほうが、じゅぷり楽しめるのが落語です。

何度聴いても → 何度も聴いたほうが断然、落語はおもしろい。

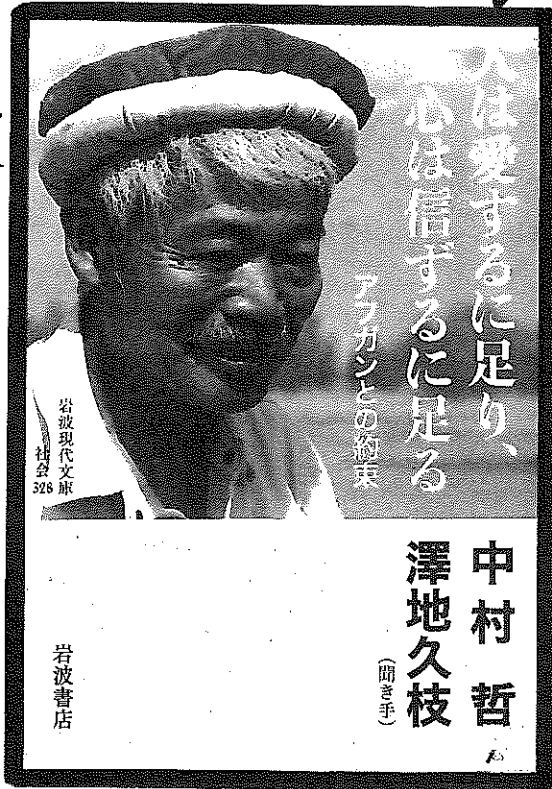
ようこそ落語ワンダーランドへ!

人は愛するに足り、真心は信ずるに足る

(中村 哲・澤地久枝(聞き手))

熱い思いを語った
貴重な肉声の記録

＜内容紹介＞. 1984年に
医療援助活動を開始
してから 2019年に凶弾
に倒れるまで、戦乱と
劣悪な自然環境に苦
しむアフガンの地で、
人々の命を救うべく身
命を賭して活動を持
続した中村哲医師。良き
聞き手を得て、熱い
思いを語った肉声の



(中村哲「あとがきに添えて」より)
もし現地活動に何かの意義を見出すと
すれば、確実に人間の实体に肉迫する
何ものかであり、単なる国際協力では
なく、私たち自身の将来に益するところ
があると思っている。人として最後まで
守るべきものは何か、尊ぶべきものは何
か、示唆するところを汲んでいただけ
れば幸いである。

記録。遺志を受け継ぐ現地PMSスタッフのメッセージも収録。

おそろし (宮部みゆき)

(ストーリー). 17歳のおちかは、ある事件を境に、ぴたりと他人に心を
閉ざした。叔父夫婦が江戸で営む袋物屋「三島屋」に身を寄せ、黙々と
働くことでやり過ごしている。ある日、叔父はおちかに、客の対応を任せ
ると告げ出かけてしまう。客と
会ったおちかは、次第にその話
に引き込まれていき、いつしか
おちかの心を溶かし始める。



あやし草紙 (宮部みゆき)

(ストーリー). 悲しみを乗り越えたおちかが迎える新たな語り手は、
貸本屋の若だんな。彼が語ったのは、読む者の寿命を教える
不思議な冊子と、それにふり回された浪人の物語。この話を
引き金に、おちかは自身の運命を変える重大な決断を下すが……